

クリスチアーン・ハイゲンス

Christiaan Huygens
(1629-1695)

1629. 年4. 月14. 日 Constantin Huygens の二男として、和蘭の首府 The Hague に生る。幼にして父の教育を受け、後 Breda の法律學校を卒業す。
1649. Henry 伯爵の使節に隨伴して丁抹に行く。
1651. 彼の科學者的生活の第一歩に入る。此の年第一論文 “Exetasis quadraturae circuli, Leyden, 1651” 次いで “Theoremata de quadratura hyperboles, ellipsis et circuli” を發表す。
1654. “De circuli magnitudine inventa” を發表す。
7655. Angers 大學の Doctor of Laws に禮遇さる。兄弟の Constantin と共に、レンズの新しい磨き方を發見す。其の直接の結果は土星の衛星の發見と、異狀なる附屬物を明にすしことなり。
1656. “De Saturni luna observatio nova” なる小冊子を出し、上述の衛星發見を公にす。振子時計の發明も此の年なり。
1657. “Horologium” を出版し、1656年の時計の發明を記載せり。同年六月十六日彼れの製作になる振子時計を、知事に呈上す。
1659. “Systema Saturnium” を出し、所謂 “triple planet” は黃道に對して、 20° の傾を有する、一つの ring なることを、説明す。
1663. Fellow of the Royal Society に選ばる。
1666. 此の頃より佛蘭西に住居す。
1669. 1. “The laws governing the collision of elastic bodies” を The Royal Society に提出す。
1673. “Horologium Oscillatorium” を、ルイ第十四世に獻本す。
1675. 2. 25. Spiral watch-spring の發明に關する記事を、”Journal des Savants” に發表す。
1678. “Traité de la Lumiere” を此の年に完成し 1690年に Leyden にて出版す。彼の有名なる “Principle of Huygens” を、此の書に記載す。
1681. 佛蘭西より和蘭に歸る。其の後六年間長大なる焦点距離を有するレンズの製作に没頭す。有名なる “aerial telescopes” に用ひし object-glass で、 $f=123, 180, 210$ feet のものが、今も尙 The Royal Society

1695. 6. 8. に保存さる。
The Hague にて没す。死後に於て出版されし著書
も亦少からず。 (宮西 謙)



クリスチヤン・ハイゲンス

1629年生れ、1695年死す。オランダ國第一の理學者として、英國のニュートン等と並び稱せられ、土星の輪の形と衛星を發見し、時計を發明し、長大なる望遠鏡を製作す。